

京大キャンパス出土の埴輪

京大の下に眠る遺跡の中から、埴輪が出てきました。今から 1500 年ほど前、卑弥呼の時代と聖徳太子の時代のちょうど中間くらいの古墳時代のことです。筒形の円筒埴輪だけでなく、家や馬、人の形をしたものもあります。



奈良や大阪にあるような大きな前方後円墳ではなく、現在だとちょっとした庭のある豪邸と同じくらい、そんなスケールと思われる古墳の方形区画溝から出土しました。数百年後に都になる京都ですが、この頃はまだ一地方にすぎなかったようで、これほど良く残った埴輪をもつ古墳は、ほとんど見つかりません。



埴輪で飾られていたこの古墳は、この辺りの村々を治めていた豪族のお墓だったと考えられます。近辺で、同じ時期の古墳が 8 基発掘されていますが、いずれも埴輪はありません。この古墳に葬られることになるリーダーは、時にはこの埴輪のような家の窓から見渡し、あるいは馬子をしたがえ飾った馬にまたがって見回り、地域の安泰・繁栄を願っていたことでしょう。

展示している埴輪を見るときに、たまには、
配下の村人の立場になってみてはどうでしょう。



まずは、馬に乗ったそのリーダーに近づくイメージで、馬形埴輪をしゃがんで見上げてみましょう。ちょっとだけ小人になった気持ちで見てください。

でも、近づきすぎると、馬を引くお付きの人ににらまれますよ。「さがれっ！」偉い人の前に出るのがNGなら、斜め後ろから、馬に蹴られないよう気をつけて……。



今度は、もっと小人になって、リーダーの住む居館を見上げるイメージ……窓から姿を見せるリーダーと目があつたら、近くに呼ばれるかも。「苦しくない。」でも、屋根からの万が一の落下物に気をつけて……。



リーダーが亡くなって、ここに葬られてからは……埴輪を、離れて低い位置から見上げてみましょう。そして、古墳を堀の外から少し見上げるイメージ……。

このサイズの埴輪でも、もし5mくらい離れて視線の上に並ぶのを見上げたら……人も、馬も、家も、大きく見えたはず。実は、古墳時代の人、人や馬が大きく見えるよう工夫しています。近くに並べる円筒埴輪を、一回り小さいものにしていました。

そうそう、この馬と馬子、古墳ではあっち向いて立ってたみたい。にらまれなくてホッとしました？ ん？ 割れ落ちて出てきた埴輪でなぜわかるか？ それはリーフレットで。